

経営比較分析表

岩手県 金ケ崎町

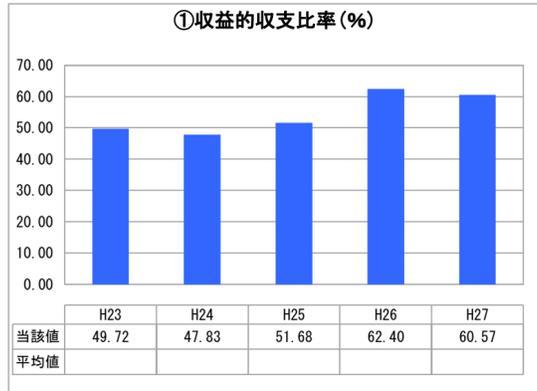
業務名	業種名	事業名	類似団体区分
法非適用	下水道事業	公共下水道	Cd2
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)
-	該当数値なし	53.54	88.04

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
16,021	179.76	89.12
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
8,542	5.58	1,530.82

1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
4,104

グラフ凡例
 ■ 当該団体値(当該値)
 — 類似団体平均値(平均値)
 【】 平成27年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



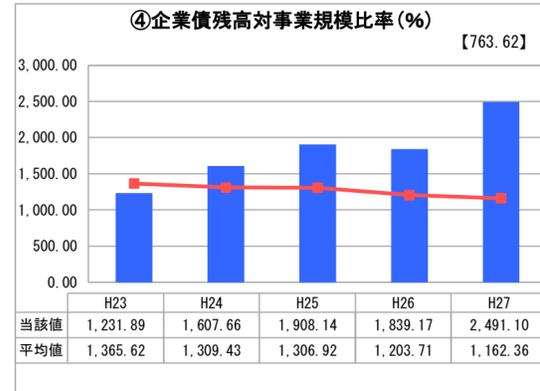
「単年度の収支」



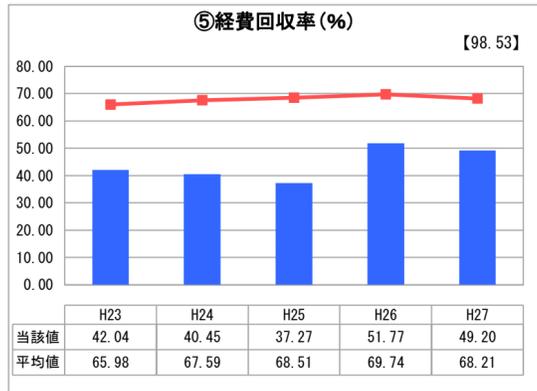
「累積欠損」



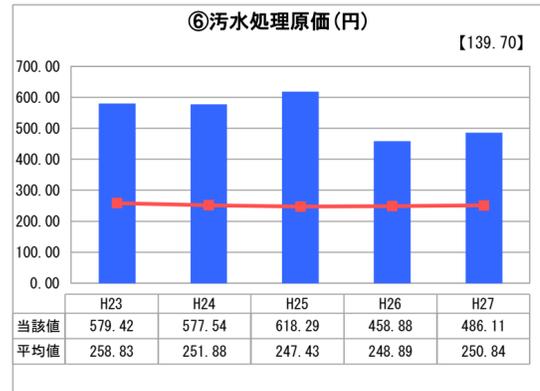
「支払能力」



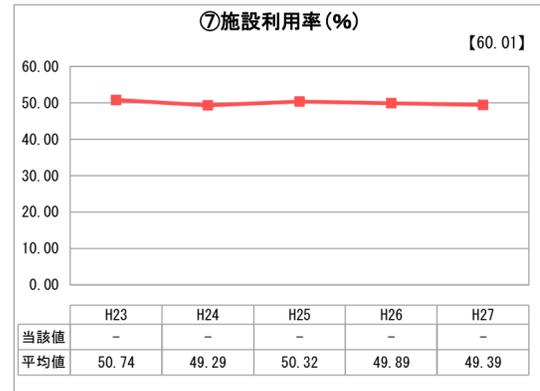
「債務残高」



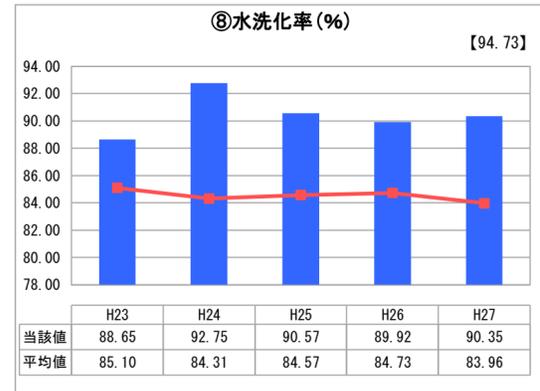
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」



「施設の効率性」



「使用料対象の捕捉」

2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

町全体の自然環境が保全され、どこに住んでも快適な生活環境を実現できるよう下水道整備を積極的に進めた結果、水洗化率は高い水準であるが、使用料確保のためにも今後も水洗化を進めていく。

経営は総収益が使用料以外の収入に依存していること、企業債償還金等多額であることから赤字収支となっている。企業債償還金が多額となっている状況の中、使用料の設定が低くなっていることから、企業債残高対事業規模比率が高くなっており、投資に対し適切な料金体制を検討していく必要がある。なお、平成27年度の数値が前年度の倍以上となっているのは、平成27年度に借入が多かったことによるものである。

また、経費回収率については、汚水処理に係る費用が使用料以外の収入により賄われていることにより、類似団体平均値よりも低い数値で推移している。

汚水処理原価については、類似団体平均値よりも高い水準で推移しており、経費削減が必要である。

なお、施設利用率については、流域関連公共下水道であるため、処理場がなく数値が0となっている。

2. 老朽化の状況について

比較的新しい施設が多く、現時点で耐用年数が近くなってきている施設はないが、今後、耐用年数を迎え老朽化していく施設に対応するため、長寿命化計画を中心とした事業を積極的に推進していく。

全体総括

下水道施設は、重要な財産であることから当施設を維持していくため、管理費用や改築更新への費用増、将来的な人口減少による使用料の減少を考慮し長期的な管理計画、経営及び料金改定等を行なっていくことが重要課題である。

課題解決に向け、下水道事業の経営検討委員会を設置しており、平成28年度において経営戦略を策定する。今後も持続可能な経営に資するため経営改善を図っていかねばならない。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。
 ※ 平成23年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。